

静岡がん会議

2018

超高齢社会における
健康寿命延伸・自立支援プロジェクト

平成31年3月2日(土)

静岡県立静岡がんセンター研究所

主催：静岡県・静岡がんセンター

開催趣旨

医療健康産業の活性化を目指すファルマバレープロジェクトでは、静岡がんセンターの活動やファルマバレーセンターの拠点整備を機に、「ふじのくに医療城下町」の形成を進めています。

このたび、静岡県・静岡がんセンター・ファルマバレーセンターは、新たに「超高齢社会における健康寿命延伸・自立支援プロジェクト」を立ち上げました。その目標は、全国に先駆けて、静岡県民が「人生100年時代」を安楽に過ごすための道しるべを整備することです。本会議では、その活動の一端を紹介します。

静岡県立静岡がんセンター 総長 山口 建



プログラム

平成31年3月2日(土)
静岡がん会議2018 静岡がんセンター 研究所 しおさいホール
静岡県駿東郡長泉町下長窪1007

テーマ：超高齢社会における健康寿命延伸・自立支援プロジェクト

10:00	主催者挨拶 ----- 川勝 平太 (静岡県 知事)
	実行委員長挨拶 ----- 山口 建 (静岡県立静岡がんセンター 総長)
I部：超高齢社会の現状と取組	
10:40	講演1 健康寿命延伸・自立支援プロジェクト行動計画 植田 勝智 (一般財団法人ふじのくに医療城下町推進機構 ファルマバレーセンター長)
10:55	講演2 超高齢社会先進国・日本が手掛ける 介護・福祉イノベーションと経済産業省の取組 平野 恵子 (経済産業省商務・サービスグループヘルスケア産業課医療・福祉機器産業室 室長補佐)
11:25	講演3 安全・安心で質の高い介護に向けて 木内 哲平 (厚生労働省老健局老人保健課介護保険データ分析室 室長)
11:55	講演4 なごや福祉用具プラザにおける高齢者・障害者の自立支援の取組 富板 充 (社会福祉法人名古屋市総合リハビリテーション事業団なごや福祉用具プラザ 作業療法士)
12:20	昼食 (60分)
II部：自立支援に向けた研究とものづくり	
13:20	講演1 高齢期を支える柔軟な支援と建築 竹宮 健司 (首都大学東京都市環境学部建築学科 教授)
13:50	講演2 「養生」しながらの生活支援とは 大野 ゆう子 (大阪大学大学院医学系研究科 教授)
14:20	講演3 超高齢化社会における福祉用具・介護ロボットの開発と利用を考える 五島 清国 (公益財団法人テクノエイト協会 企画部長)
14:50	講演4 超高齢社会を迎えた社会保障制度 ～在宅生活を支える福祉用具の今後～ 日高 裕史 (一般社団法人日本福祉用具供給協会 静岡県副ブロック長 フランスベッド株式会社メディカル中部営業部 部長補佐)
15:20	質疑応答
15:30	休憩 (10分)
III部：地域・企業の取組事例	
15:40	講演1 福祉機器の海外先進活用事例の紹介 三宅 義信 (ヒルロム ジャパン株式会社 西日本セールスマネージャー)
16:10	講演2 超高齢社会での、ものづくり企業の福祉機器開発 安部 一祐 (有限会社京和工業 会長)
16:30	講演3 足操作マウス『フットルース』の開発 長島 秀明 (株式会社ビーアライブ 代表取締役)
16:50	質疑応答
16:55	閉会挨拶 ----- 山口 建 (静岡県立静岡がんセンター 総長)

*講演のテーマ等につきましては、変更する場合があります。ご了承ください。

I部：超高齢社会の現状と取組

講演1

健康寿命延伸・自立支援プロジェクト行動計画

講師

植田 勝智 一般財団法人ふじのくに医療城下町推進機構 ファルマバレーセンター長



経歴・研究活動等

- 1976年 静岡県中小企業財団中央会入会
静岡県内の中小企業で組織される協同組合等の設立から運営支援に従事
- 2005年 (公財)静岡県産業振興財団ファルマバレーセンター副所長として出向
創薬探索事業、静岡県治験ネットワークの運営及び医療・健康産業分野に進出を図る地域企業の医看工連携に努める
同センター所長
- 2012年
- 2018年 (公財)静岡県産業振興財団から独立した、
(一財)ふじのくに医療城下町推進機構ファルマバレーセンターの常勤理事・ファルマバレーセンター長

ファルマバレープロジェクトは「世界一の健康長寿県の形成」を基本理念に、静岡がんセンターなどの臨床現場ニーズを、地域企業等と共に製品化してきたが、その半数近くが介護・福祉分野にも活用できるものとなっている。

これまで進めてきたベッドサイドニーズの「ものづくり」に加え、介護・福祉分野への取組みを強化することで、日本が世界で類をみない超高齢社会を迎えるに当たり、高齢者が可能な限り自立した生活を送れるプロジェクトを積極的に推進する。

講演2

超高齢社会先進国・日本が手掛ける 介護・福祉イノベーションと経済産業省の取組

講師

平野 恵子 経済産業省商務・サービスグループヘルスケア産業課医療・福祉機器産業室 室長補佐



経歴・研究活動等

- 1988年 学習院大学法学部卒業
- 2010年 商務情報政策局医療・福祉機器産業室
- 2012年 大臣官房調査統計グループ構造統計室
- 2015年 貿易経済協力局野生動物植物貿易審査室
- 2017年 商務・サービスグループヘルスケア産業課医療・福祉機器産業室

我が国は、世界に先駆けて超高齢社会に突入り、社会保障費の増加や、介護施設・人材の不足等の社会的な課題が現実となっており、それらの課題を解決し、国民の健康に対する多様なニーズに対応する新たなヘルスケア産業の継続的な創出と発展が必要となっている。

今後、国民の平均寿命の延伸に対応して、健康寿命をできるだけ長く維持し、「生涯現役」を前提とした経済社会システムに再構築することが重要である。

このような中、経済産業省では、ロボット介護機器・福祉用具の研究開発を支援したり、公的保険外のヘルスケアサービス産業を振興するため、ヘルスケアビジネスコンテスト等様々な取組みを実施しているところである。

超高齢社会先進国である日本から、介護・福祉分野のイノベーションを世界に発信し、将来の世界の健康寿命への貢献を目指した施策について紹介する。

講演3

安全・安心で質の高い介護に向けて

講師

木内 哲平 厚生労働省老健局老人保健課介護保険データ分析室 室長



経歴・研究活動等

- 2003年 慶應義塾大学医学部卒業
- 2004年 保険局医療課
- 2010年 医薬食品局審査管理課
- 2015年 宮崎県福祉保健部健康増進課長
- 2017年 保険局医療課
- 2018年 老健局老人保健課介護保険データ分析室

団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築が目指されている。平成30年度介護報酬改定では、①地域包括ケアシステムの推進、②自立支援・重度化防止に資する質の高い介護サービスの実現、③多様な人材の確保と生産性の向上、④介護サービスの適正化・重点化を通じた制度の安定性・持続可能性の確保の4つの柱に沿った改定が行われた。

講演4

なごや福祉用具プラザにおける高齢者・障害者の自立支援の取組

講師

冨板 充 社会福祉法人名古屋市総合リハビリテーション事業団なごや福祉用具プラザ 作業療法士



経歴・研究活動等

- 2001年 北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科作業療法学専攻卒業
名古屋市総合リハビリテーション事業団
名古屋市総合リハビリテーションセンター
医療保険、介護保険、自立支援分野におけるリハビリテーション業務及び高次脳機能障害モデル事業訓練マニュアル作成に従事
- 2010年 名古屋市総合リハビリテーション事業団
なごや福祉用具プラザ
福祉用具の適合相談に従事

日本作業療法士協会会員、愛知県作業療法士会会員
福祉用具専門相談員、福祉住環境コーディネーター、介護支援専門員

なごや福祉用具プラザは、1997年7月より介護実習・普及センターとして福祉用具の展示・相談、研修事業の他、工房を設置し福祉用具の製作改造や、技術ボランティアの育成活動の場を持つなど、テクノエイド機能をもつ相談機関として高齢者、障害者の自立活動を支援してきた。2013年からは福祉用具・介護ロボット実用化支援事業を受託し、新しい介護の形を模索している。福祉用具や介護ロボットの相談・活用例の紹介、開発企業の相談支援について現在の取組をお伝えする。

II部：自立支援に向けた研究とものづくり

講演1

高齢期を支える柔軟な支援と建築

講師

竹宮 健司 首都大学東京都市環境学部建築学科 教授



経歴・研究活動等

- 1996年 財団法人がん研究振興財団リサーチレジデント
1997年 国立医療・病院管理研究所協力研究員
東京都立大学大学院工学研究科助手
2001年 東京都立大学大学院都市科学研究所助教授
2010年 首都大学東京都市環境学部建築都市コース教授
2018年 首都大学東京都市環境学部建築学科教授
[受賞歴]
1997年 日本建築学会奨励賞
2016年 首都大学東京都市環境学部「主幹教授」

日本の高齢者施設は、介護保険制度の下で、多様な介護サービスの種類に対応した施設が建設されている。

2006年に創設された「小規模多機能型居宅介護」は、高齢者の「通い」「泊まり」「訪問」のサービスを柔軟に組み合わせて提供することで在宅高齢者のニーズに対応するサービスである。

本講演では、この小規模多機能型サービスが制度化される契機となった2つの施設を事例として、高齢期の暮らしを支える柔軟な支援と、その支援の場としての建築について紹介する。

講演2

「養生」しながらの生活支援とは

講師

大野 ゆう子 大阪大学大学院医学系研究科 教授



経歴・研究活動等

- 1979年 東京大学医学部保健学科卒業
1985年 東京大学大学院医学系研究科博士課程修了
東京大学医学部附属医用電子研究施設、統計数理研究所、国立がんセンター研究所、東京都神経科学総合研究所等
1995年 大阪大学医学部保健学科教授
2010年 ロボティクス&デザイン看工融合共同研究講座開設
2018年 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻長
日本生活支援学会代表理事

日本は国民皆保険制度により何歳でも医療を受けることができる、世界でも珍しい国である。したがって生活支援を考える時には、加齢とともに疾病予防・病後の保養という「養生」の考え方が常に必要となる。「支援が必要」な体の不具合は、一時的なものか、加齢によるものか、疾病と関係するものか、適切な情報により逐次評価し、支援技術・機構を提案する新たな科学が求められる。

講演3

超高齢化社会における福祉用具・介護ロボットの開発と利用を考える

講師

五島 清国 公益財団法人テクノエイド協会 企画部長



経歴・研究活動等

- 1988年 国立療養所岐阜病院
社会福祉・医療事業団
厚生省保健医療局管理課
- 1993年 公益財団法人テクノエイド協会企画部
福祉用具・介護ロボットに関する調査調査研究及び開発普及にかかわる各種事業を担当

- 厚生労働省
介護保険福祉用具・住宅改修評価検討会構成員
- 経済産業省・日本機械工業連合会
ロボット大賞審査・運営委員会委員
- 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
ロボット介護機器開発・標準化事業課題評価委員等

高齢者や障害者の自立を支援し、介護者の負担を軽減する福祉用具・介護ロボットは、利用者の心身機能の維持・向上と、活動や参加を促すものとして、極めて重要な役割を果たすものである。

一方、少子高齢化の進展に伴い、労働力の確保等が喫緊の課題となっている我が国において、福祉用具・介護ロボット開発の現状と課題を整理するとともに、高齢者福祉の現場等で、福祉用具・介護ロボットを安全かつ効果的に使用するための方策について考察することとする。

講演4

超高齢社会を迎えた社会保障制度 ～在宅生活を支える福祉用具の今後～

講師

日高 裕史 一般社団法人日本福祉用具供給協会 静岡県副ブロック長
フランスベッド株式会社メディカル中部営業部 部長補佐



経歴・研究活動等

- 2003年 フランスベッドメディカルサービス株式会社入社
- 2014年 フランスベッド株式会社メディカル浜松営業所営業所長
- 2016年 フランスベッド株式会社メディカル静岡営業所営業所長
- 2017年 フランスベッド株式会社メディカル浜松営業所営業所長
- 2018年 フランスベッド株式会社メディカル静岡ブロック統括所長
一般社団法人日本福祉用具供給協会東海・北陸支部役員
一般社団法人日本福祉用具供給協会静岡県副ブロック長
フランスベッド株式会社メディカル中部営業部部長補佐

日本は、2025年に団塊の世代が75歳以上となり、高齢者数が最高になると予想されている。高齢者数の増加により、社会保障費の増大や介護人材の不足、認知症高齢者の介護など、様々な問題が懸念されている。

今回は、介護保険制度の変遷や静岡県東部の状況を踏まえ、介護人材不足や在宅介護の対応など、役割が高まっていく福祉用具について紹介する。

Ⅲ部：地域・企業の取組事例

講演1

福祉機器の海外先進活用事例の紹介

講師

三宅 義信 ヒルロム ジャパン株式会社 西日本セールスマネージャー



経歴・研究活動等

- 2002年 摂南大学工学部卒業
三宝電機株式会社入社
- 2005年 フィリップスエレクトロニクスジャパン株式会社
プロジェクトマネージャーとして大型X線機器設置プロジェクトを担当
- 2009年 ドロイングオフィスにて病院放射線機器関連図面作成を担当
同時にIEC規格製品をJIS規格に当てはめ設置するための計画書作成を担当
- 2012年 マッケジャパン株式会社
CSU/VARIOPプロダクトマネージャーとして手術室、ICUの環境提案を担当
- 2016年 ヒルロムジャパン株式会社
PSSマーケティングマネージャー
- 2018年 西日本セールスマネージャー

Hill-Rom社は1929年にアメリカで創業し、病院、施設から在宅に至るベッド、家具関係を製造してきた。近年は、事業領域をクリニックで使われるフィジカルアセスメント領域、その後の周術期、リハビリテーション領域まで事業を拡大している。

今回は、リハビリテーション領域から病棟、在宅で使われる福祉機器の活用事例を紹介する。

講演2

超高齢社会での、ものづくり企業の福祉機器開発

講師

安部 一祐 有限会社京和工業 会長



経歴・研究活動等

1961年	東芝機械(株)入社 圧延ロール研削盤製造や自動車産業 トランスファーマシン他の製造技術
1983年	人事課長・総務部長
1997年	定年退職 (有)京和工業代表取締役
2003年	「網自動整列洗浄装置」の開発・食業界の省力・環境商品 として主力商品化 福祉機器の開発を志向
2010年	[受賞歴]
2013年	人間工学会グッドプラクティス賞 「車椅子利用者向けの在宅用の自己他動運動機器」
2014年	静岡県知事表彰 「網自動整列洗浄装置」の新技術・商品化

当社は、食品業界に「網自動整列洗浄装置」を製造・販売する社員15名の一般機械器具製造業の「ものづくり」企業である。

福祉への発想は、ある社員の脳梗塞支援から始まった。リハビリテーションに専念できるよう、遅刻・早退を容認していたが約2年経ても殆ど改善がなく、経緯に疑問を感じていた。そこで、在宅でもリハビリテーションすべしと、健常側で麻痺側を訓練する自己他動の機具を開発した。結果、発病7年目に各指が反応・動きが見られた。

この感動から、この後の開発は、残存能力に着目し、「廃用」予防に挑んでいる。

講演3

足操作マウス『フットルース』の開発

講師

長島 秀明 株式会社ビー・アライブ 代表取締役



経歴・研究活動等

1978年	法政大学工学部機械工学科卒業
1981年	株式会社メイテック入社 プリンターから設備機械の設計に従事
2001年	株式会社サンヨーテクニカ 自動車部品の製造会社の経営管理に従事
2007年	有限会社有富設計 設計管理に従事
2008年	株式会社ビー・アライブ設立 代表取締役 医療機器から自動車部品まで各種機械の開発・製造を請負 事業を営む

静岡がんセンター及び株式会社ビー・アライブが共同で開発した足操作マウス『フットルース』を活用することにより、両手が塞がる術中において、執刀医自身が足でパソコン操作ができるようになり、閲覧したい画像を円滑に選択し確認することができるようになった。

現在、IVRIはもちろん、上肢を不自由とする障がい者の日常生活の質の向上や就労支援に役立つ機器として注目され始めている。